

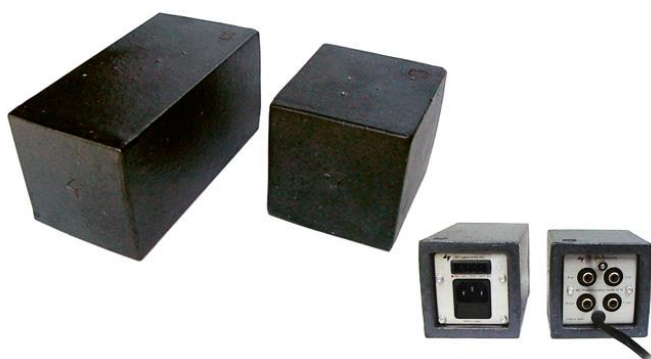
## Garrard 401 の再構成(9) —フォノイコライザーの交換(2)—

### 1. はじめに

ZANDEN Model 120 の導入を契機に Garrard 401 の再構成を実施しました。

### 2. Garrard 401 の再構成の試聴方法

[Garrard 401 の再構成\(7\)](#)において MC ダイレクト入力の 47 研のフォノイコの 4718 信楽を接続しています。まず、4718 信楽の出力にアナログアキュライザーを使用し、今回は、アンバランス／バランス変換ケーブルを用いて P&G フェーダーに入力します。P&G フェーダーから 300B シングルアンプは、バランスアナログアキュライザーの活用(3)で報告のとおり、従来のアンバランス接続からバランス接続に替わっています。



次のステップとして、MC ダイレクト入力の ZANDEN Model 120 の導入により、My Sonic のトランス Stage 1030 が余ってききましたので、このトランス経由でフォノイコとして Brooklyn DAC+を使用して試聴しました。

Garrard401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→P&フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子) →(バランスケーブル)→300B シングルアンプ

その後、さらに 2 個目の BACU-2000 が到着しましたので、P&フェーダーのバランス出力端子に加えてみました。

Garrard401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→P&フェーダー(バ

ランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B  
シングルアンプ

音源は ZANDEN Model 120 の導入(2)で使用したものです。

### 3. Garrard 401 の再構成の試聴結果

Ortofon SPU Royal N と 4718 信楽との組み合わせで試聴した結果、4718 信楽の出力にアナログアキュライザーを使用したこと、P&G 入力以降をバランス接続としたこと、LINN LP-12 の再構成(21)で報告したルームアコースティック条件に手をいれたことで、従来の Garrard401 の Ortofon SPU Royal N の印象が随分変わってきています。すなわち、Ortofon SPU Royal N は細身で、しなやかなところが身上と感じていましたが、力強くダイナミックなところが出てきましたし、ルームアコースティックに手を入れたことで、左右のバランスや音のゆらぎと滲みも消えてきました。ちょうど LP-12 の調整を終わって来訪していた LINN ショップにも聴いていただきましたが、定位の揺らぎや音の滲みもないということでした。

次のステップで、Stage 1030 をラック内に収容し、Garrard401 との結線を行い、Ortofon SPU Royal N と Stage 1030 と Brooklyn DAC+との組み合わせで試聴した結果、ハムを引きましたので、Stage 1030 と Brooklyn DAC+の間のアースラインを採りました。



その結果、ハムも収まり、Garrard401 のシステムでも Brooklyn DAC+の位相反転機能を使って、音源の位相チェック実験(13)と同様の結果が得られるようになりました。すなわち、LINN LP-12 と Garrard401 はカートリッジが違いますが、同じ盤をかけると、音の広がり感や定位や音像の立ち方が、位相反転なしと位相反転ありで、同じ結果が得られたということです。

音質的には、Stage1030 + Brooklyn DAC+と 4718 信楽の違いということになりますが、それぞれに良い面があり、やや深みのある表現力の前者に対し、すっきり系の後者ということになります。

さらに、2 個目の P&フェーダーのバランス出力端子に加えてみましたところ、音の深みが一層増し、微妙な音楽の表現力が向上します。一例を挙げれば、バッハのチェンバロ協奏曲で初めて生のチェンバロの音のように聴こえました。これを聴くと元に戻れない印象です。

#### 4. まとめ

Stage 1030 と Brooklyn DAC+との組み合わせとバランス接続およびアナログアキュライザーやバランスアナログアキュライザーの総合的な効果が確認できました。また、Garrad401 のシステムで Brooklyn DAC+の位相反転機能を使えるようになりました。

以上